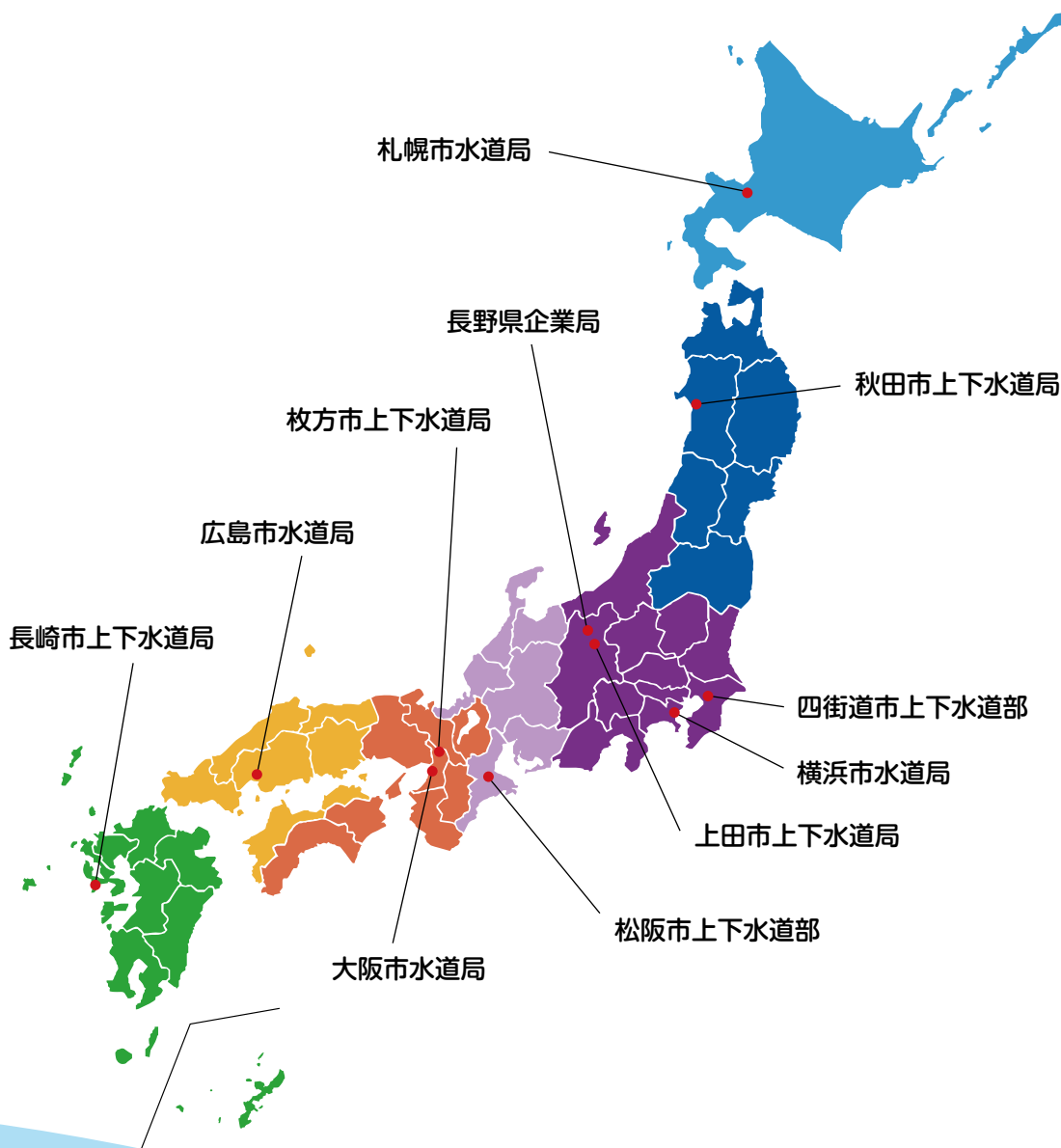


118号でご協力いただいた事業者





北海道支部

## 札幌市水道局

### オリジナルソングによる広報活動



ミュージックビデオのシーン

札幌市水道局では、広報活動の新たな展開として、令和6年度にオリジナルソング「とくべつなあたりまえ」を制作しました。制作にあたっては、北海道を中心に活躍するシンガーソングライター、金子智也さんが作詞・作曲および歌唱を担当し、明るく温かいトーンの楽曲が出来上がりました。

制作の背景には、「音楽」という新しい切り口を通じて、水道事業への関心が比較的低い若年層にもアプローチしたいという狙いがあります。親しみやすい音楽の側面から水道局のイメージアップを図り、歌詞を通じて、普段当たり前のように使っている水道水の価値を再認識していただくとともに、安心・安全な水に対する職員の思いを伝えたいという願いを込めました。

楽曲完成後は、水道局主催のイベントなどで披露してまいりましたが、より多くの市民にこの曲を届けたいという思いから、市民の関心を惹きつける、より魅力的なコンテンツとして、令和7年度に本格的なミュージックビデオ (MV) の制作を行いました。

撮影はプロの制作チームが手掛け、金子智也さんご本人はもちろん、水道局公式キャラクターの「ウォッピー」や、水道局の職員も出演しています。普段市民の目に触れない白川浄水場や藻岩浄水場をはじめ、水源である定山溪ダムを舞台に、金子さんとウォッピーのコミカルな追跡劇が繰り広げられ、ドローン撮影も駆使した壮大な映像美も交えながら、水道事業の巨大なスケール感と親しみやすさを同時に表現しました。

完成したMVは、令和7年12月からYouTubeの札幌市公式チャンネルにて公開しており、令和8年1月16日現在で再生回数は1,300回を超え、順調な滑り出しを見せています。

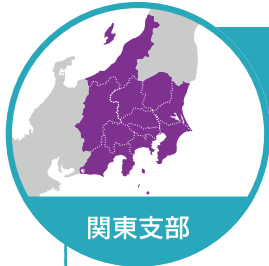
視聴者からは「ストーリー性があって良い」との評価をいただいております。特に全速力で走るウォッピーの懸命な姿は、子どもたちから人気です。

今後もイベントなど様々な場面でこのMVを活用した効果的な広報を展開し、「とくべつなあたりまえ」である水道水の魅力の発信と、水道事業への理解促進を図ってまいります。



動画視聴用 QR コード  
(YouTube)





関東支部

## 四街道市上下水道部

### 四街道市総合防災訓練への参加

千葉県のほぼ中央部に位置している四街道市では、自衛隊、県、警察、協定事業者等との連携による応急対応の実効性の向上や市民の防災意識・知識の向上を目的とした、「四街道市総合防災訓練」を6年ぶりに実施しました。

水道課のブースでは、給水車による応急給水の体験や一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会からお借りした耐震管の手動模型と耐震体験管の展示を行いました。また、四街道市指定管工事業協同組合の皆さんによる漏水管修理のデモンストレーションも実施されました。当日は朝から冷たい雨が降り開催も危ぶまれる生憎の天気でしたが、時間がたつにつれて段々と小雨になり、徐々に来場者も増え、無事に市民の皆さんにも手動模型の体験や展示をご覧いただくことができました。特に漏水管修理のデモンストレーションでは、噴水のように勢いよく噴き出している水道管を素早く修理する様子に、市民の皆さんも興味深く観察されているのが印象的でした。訓練を通して市民の皆さんからも質問が寄せられ、昨今の事故等を受け、老朽化したインフラの更新や耐震化に対する関心の高さを直接感じることができる、貴重な機会となりました。

今回は大規模な訓練でしたが、日頃から実施している小さな訓練を今後も積み重ねていき、発災時にも迅速に対応していける体制作りを進めてまいります。



模型展示



給水車と応急給水タンク



漏水管修理デモの様子と四街道市長



模型展示と四街道市長



関東支部

## 横浜市水道局

### 「子ども向け水道工事体験模型」の活用 ～区民まつりへの参加等～



子ども向け水道工事体験模型



瀬谷フェスティバルの様子



国際園芸博覧会 PR ブース

横浜市水道局北部方面工事課では、子どもに水道工事について興味をもってもらえることが幅広い世代の配水管整備の理解向上、促進につながると考え、設計系の職員を中心に「子ども向けPRプロジェクト」を立ち上げ、令和5年度に「子ども向け水道工事体験模型」（以下、「子ども向け模型」という。）を製作しました。この模型は、バックホウを模したスコップでの穴掘り体験や、水道管を模したビニールホースの着脱が行える等、砂遊びの要素を取り入れ、遊びながら学べるものとなっています。この模型を活用した広報の取組が、7年度、水道イノベーション広報大賞の特別賞を受賞しました。

この模型を用いた体験コーナーは、イベント等でも大変人気のアトラクションとなっており、毎回長い待機列ができ、予定より台数を増やして対応するほどです。また、その待ち時間に、保護者の方に工事説明のパンフレットを配布し、市民向けに作成した詳細模型を用いて説明するなど、大人にもアプローチする工夫をしています。

令和7年度も、10月18日の瀬谷フェスティバル（横浜市瀬谷区役所主催）、11月3日の都筑区民まつり（同都筑区役所主催）、11月8日のふるさと港北区民まつり（同港北区役所主催）と、管内3か所の区民まつりに出展し、延べ2300人を超える市民の方々に楽しんでいただくことができました。また、瀬谷フェスティバルにおいては、令和9年3月から同区にて始まる「2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO2027）」のPRも行われておりました。なお、国際園芸博覧会の会場整備のための水道工事業務は、当課職員が横浜市職員を併任し、従事しています。

さらに、この模型については、民間事業者や、局内他課にも模型の貸出を行っており、地域での啓発活動や、学童保育との連携事業、防災イベント等でも活用しています。

今後もより多く子どもたち、ひいては市民に関心を持ってもらい、水道事業への理解を深めてもらうことを目指します。



ふるさと港北区民まつり出展ブース

子ども向け  
水道工事体験模型  
デモ動画





関東支部

## 上田市上下水道局

### 当たり前をいつまでも

上田市上下水道局では、令和7年10月31日、11月1日に開催された「産業ミライフェス in UEDA2025」において、お客様に身近な水道水がどのような管を通して蛇口まで来ているのかを知っていただくブースを出展いたしました。ブースでは、一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会様にご協力をいただき、ダクタイル鉄管(GX形)の耐震体験管、カットサンプル、パネルを展示し、管の特性などを説明させていただきました。

耐震体験管を体験した小・中学生からは「わっー!本当に抜けない」など声を上げながら引っ張っている姿が見られました。この体験により、更新時の耐震化の取り組みについて少しでも関心を持っていただけたのではと感じました。また、ご来場いただいたお客様には、上田市の現状についてパンフレットもお配りし、身近な水道について知っていただく良い機会となりました。今後もこうしたイベントにより、多くの皆様に水道事業について周知していければと考えております。

水道事業を取り巻く環境は、人口減少による有収水量の減少、施設の更新費用の増大、人材不足など多くの課題を抱えております。また、近年は地球温暖化の影響による豪雨災害や全国各地で大規模な地震災害が発生している中、我々水道事業者は、蛇口をひねれば当たり前に出る水道水を供給し続けなければなりません。

上田市営水道は創設から102年を迎えましたが、基本理念である「安全と安心、持続可能な水道をいつまでも」により、今後も取り組んでまいります。



展示状況：ダクタイル鉄管(GX形)



説明状況



体験状況

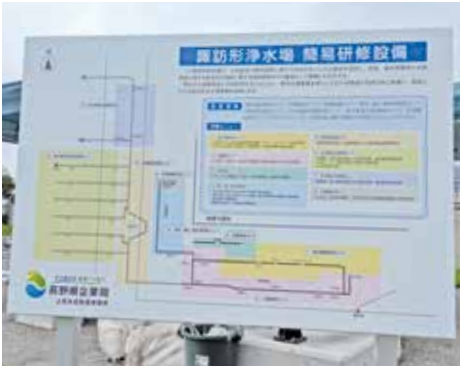




関東支部

## 長野県企業局

### 「簡易研修設備」整備による県内水道事業者支援



簡易研修設備概要



研修設備（地上配管部）



水質改善のための排水研修（流量と管内水の挙動確認）

長野県内の水道事業は、小規模な事業者が多いこともあり、技術職が不在で一般職が施設の維持管理を担当している状況も少なくありません。このため、専門的な知識や技術を習得する機会の確保が課題となっていました。

長野県企業局は、これまでも研修会などを通じて県内市町村の水道事業者への支援に取り組んでまいりましたが、支援体制の強化として、水道管路の維持管理に関する実技研修を行うための「簡易研修設備」を上田市内の諏訪形浄水場に整備しました。

計画段階から、他県の事例を参考にしつつも、実際に現場で働く事業者側の視点を意識して整備を進め、ダクタイル鉄管の地上配管などにより、小規模ながらも「断水・通水・管洗浄」、「各種弁操作」、「漏水探査」、「管の接合・解体」など、8つのテーマについての実技研修が可能となっており、この規模の実技研修設備は県内初の設置となりました。

令和7年10月16日には、当局が以前から実施している「水道事業実務研修会」をこの設備を使用して開催し、県内各地から18団体、総勢43名が参加しました。参加者は、各種弁操作、漏水探知、流量計設置、排水作業などの実技訓練に熱心に取り組み、「貴重な体験ができた」といった好意的な意見とともに、継続的な研修実施の要望をいただきました。

当局としては、この簡易研修設備を効果的に活用し、当局職員はもちろんのこと、県内水道事業全体の人材育成と技術力向上を図ることで、将来にわたる安定的な水道事業の運営を支援していきたいと考えています。



空気弁等維持管理実技研修の状況



中部支部

## 松阪市上下水道部

### 市役所の職場見学を通して伝えた 地震対策とその役割

水道管の老朽化が進むなか、近年多発する大規模地震災害に備えた水道施設の耐震化は、極めて重要であり、かつ喫緊の課題となっています。

こうした状況のなか、地域の小学校児童のみなさんが松阪市三雲地域振興局の職場見学に来てくれました。

各所属で仕事の内容を紹介するなかで、北部上下水道事務所では、ダクタイル鉄管のパネル展示や、通常の水道管と地震に強いダクタイル鉄管の模型等を用いて、水道管の仕組みや耐震化の重要性について、児童にもわかりやすいように説明しました。

児童からは「あっ、これみたことある」といった声が上がったほか、「地震の時は水が出ませんか?」などの質問が寄せられました。

これらの質問に対して職員は、パネルを使った実際の災害事例や、本市の取り組みを交えながら説明しました。

限られた時間ではありましたが、今回の見学を通じて、「将来を担う世代に水道の大切さを伝えること」や「災害に備える意識の重要性」を、あらためて感じる貴重な時間となりました。

引き続き、重要な幹線管路や、病院・避難所などへの給水ルートについて、優先度を定めたくうえで順次耐震化を図ってまいります。



職場見学の様子



小学校児童に説明



カットサンプル・パネルの展示



関西支部

## 枚方市上下水道局

### 中宮浄水場～春日受水場間の送水管更新工事



説明会の様子



管材くぐり体験の様子



応急給水の実演

枚方市上下水道局では、安全な水道水を将来にわたって安定してお届けするため、中宮浄水場から春日受水場まで約 3.5kmにわたり、セグメント外径 1,800mm・水道管内径 800mm (PN 形) の送水管更新工事を進めています。

2025年11月14日(金)・15日(土)の2日間には、国土交通省近畿地方整備局近畿技術事務所で開催された「ふれあい土木展2025」にて、市民の皆様にご覧いただくためPRを行いました。

会場には多くの市民の皆様が訪れ、工事の流れやシールド工法を紹介するパネル展示、実物の管材を熱心に見学し、地中で行われる大規模工事への理解を深めていただきました。

また、期間中には地元小学校3年生2クラスを招き、社会科の野外授業として説明会も実施しました。児童たちはパネルや管材に目を輝かせ、「水が家まで届く仕組みがよくわかった」「地面の下でこんな工事が行われているなんてびっくりした」といった感想が聞かれました。

特に、展示した実物の管材(PN形φ800mmの直管)の中を歩く体験に喜んでいました。

上下水道局では、今後も市民の皆様にご安心して水をご利用いただけるよう、工事の安全管理と周辺環境への配慮を徹底しながら事業を進めてまいります。

### 水道管の更新工事は順調に進んでいる？

中宮浄水場～春日受水場間の送水管更新工事を進めています。

**<工事概要>**

中宮浄水場から春日受水場まで中継点を設けた事業区、市内中心部の街並み、多くの人がお住まいですが、地下には埋め立てられた埋立地、埋立地掘削工事を行います。

工事区、シールドマシンから掘削した掘削機を走らせて地下を掘削しながら、同時にトンネルの壁(セグメント)を積み立てていく、シールド工法という掘削を行っています。

**<内容>**

工事区、中宮浄水場～春日受水場間約3.5kmの送水管更新工事

掘削機、中宮浄水場～春日受水場間約3.5km

工事内容、埋立地掘削・シールド工事 掘削径1,540mm

掘削機、シールドマシン(外径1,800mm、全長約100m)

工期、令和7年3月15日(土)～令和7年10月15日(土)

**標準断面図**

管までの深さ 13m～36m

シールドマシン 外径1,800mm

水道管内径800mm

**<施工状況>**

掘削機を動かして、シールドマシンを掘削するおまの掘削機、掘削機を動かしています。

**【ルートイメージ】**

中宮浄水場(3号分譲地) → 近畿府道10号線 → 近畿府道10号線 → 春日受水場(3号分譲地)

約3.5km

高さ30m

送水管更新工事について



関西支部

## 大阪市水道局

### 柴島浄水場 桜並木通り抜け



桜を楽しむ人々

春の訪れとともに、柴島浄水場では、恒例行事として「桜並木通り抜け」を実施しています。

普段は立ち入ることのない浄水場を歩きながら桜を楽しめるこの取組は、水道事業をより身近に感じていただきたいという思いから続けてきたものです。

今年は、3月28日から4月8日まで開催しました。会場は、阪急京都線「崇禅寺」駅から「淡路」駅間の東側線路沿い、約460メートルにわたる区間で、樹齢50年以上のソメイヨシノを含む計149本の桜が咲き誇ります。桜の枝が重なり合うように続く並木は、「桜のトンネル」として、地域の方々に長く親しまれています。

来場された方が足を止めて桜を見上げたり、ゆっくりと散策したり、敷物をひろげて楽しく語らう姿は、この取組が地域の中に自然に溶け込んでいることを感じさせます。

また、日没後には花見ぼんぼりによるライトアップを行い、やわらかな灯りに照らし出された夜桜を楽しんでいただいています。昼間とは異なる表情を見せる桜並木は幻想的で、にぎわいの中にも春の趣を感じさせてくれます。

柴島浄水場の桜並木通り抜けは、春を楽しむひとときであると同時に、「水をつくる現場」を、より身近に感じていただく機会となっています。

これからも、水道事業への理解と親しみを深めていただけるよう、こうした取組を通じて発信を続けていきます。



夕暮れ時の桜



一輪の桜



夜桜



中国四国支部

## 広島市水道局

### 「ひろしま水道物語」

街に張り巡らされた水道管は、24時間365日、音もなく流れ「命の水」を運び続けています。その背景には、それぞれの地域で積み重ねられてきた歴史と文化が息づいています。その「唯一無二」の物語を語り継ぐことは、水道をかけがえのない地域の財産として育み、次世代へと継承することにつながるものと考えています。こうした考えの下、昨年10月、本市で開催された日本水道協会全国会議を契機として、「ひろしま水道物語」を作成しましたのでご紹介します。

この物語は、本市に近代水道が整備される以前の江戸時代の暮らしに始まり、明治期における市民が待ち望んだ近代水道の創設、さらに原爆投下という未曾有の災禍に見舞われながらも断水を免れ、「命の水」を送り続けた断水の水の歴史へと続きます。そして戦後の復興期から高度経済成長期にかけて広島の発展を力強く支えた拡張の時代を経て、今日に至るまでの127年にわたる水道の歩みの人々の暮らしと重ね合わせながら描いています。加えて、過去の渇水や自然災害

の経験を糧とした取組や、現在、水道を取り巻く様々な課題に対して柔軟な発想により挑戦していることにも触れ、本市の水道がこれからもまちづくりの礎として「命の水」を絶え間なく届けていくという決意を込めたものとしています。

この「ひろしま水道物語」の概要版を広報紙「みずたま」に掲載し、全戸に配布したところ、お客さまから「当たり前のように使っていた水道が有難く感じた」「皆さんの努力があって水道が使えていることがわかった」などのご意見をいただきました。これからも本市の水道は市民の皆さんと共に歩み続け、将来にわたって信頼される水道を目指して取り組んでまいります。

なお、「ひろしま水道物語」の全文は公式ホームページに掲載し、音声でもお聴きになれます。本市の水道が紡いできた物語を感じ取っていただければ幸いです。

「ひろしま水道物語」の全文はこちらからお覧になれます



1945年8月6日、広島市は原爆投下を受け、街は瞬時に灰塵の海に変わりました。その中で、水道局の職員が断水の嘆きに耐えながら、命の水を市民へ送り続けました。この断水を契機として、断水の歴史として語り継がれていくべき水道の物語、人々の暮らし、財政、戦後復興事業としての水道管や水道施設の復旧を行ってきました。その後、高度経済成長期には、生活の質の向上とともに、広島市の発展を支える重要な役割を果たすべく、断水の歴史と向き合ってきました。そして、断水の歴史と向き合ってきました。そして、断水の歴史と向き合ってきました。

### 「届け」命の水 復興と成長を支えた水道

1945年8月6日、広島市は原爆投下を受け、街は瞬時に灰塵の海に変わりました。その中で、水道局の職員が断水の嘆きに耐えながら、命の水を市民へ送り続けました。この断水を契機として、断水の歴史として語り継がれていくべき水道の物語、人々の暮らし、財政、戦後復興事業としての水道管や水道施設の復旧を行ってきました。その後、高度経済成長期には、生活の質の向上とともに、広島市の発展を支える重要な役割を果たすべく、断水の歴史と向き合ってきました。そして、断水の歴史と向き合ってきました。

「命の水」の物語は、江戸時代の暮らしに始まり、明治期における市民が待ち望んだ近代水道の創設、さらに原爆投下という未曾有の災禍に見舞われながらも断水を免れ、「命の水」を送り続けた断水の水の歴史へと続きます。そして戦後の復興期から高度経済成長期にかけて広島の発展を力強く支えた拡張の時代を経て、今日に至るまでの127年にわたる水道の歩みの人々の暮らしと重ね合わせながら描いています。

### 広島市の水道の歴史と未来をつなぐ物語

はじめに、水道は、ただの水ではありません。それは、それぞれの地域で、長い年月をかけて築かれてきた水にまつわる歴史と文化が息づいています。その「唯一無二」の物語を丁寧に語り継いでいくこと、今、全国を駆け巡る水、次世代へつなぐ水、命の水、かけがえのない財産として育んでいくこと、これが「ひろしま水道物語」の目的です。

### 水求めた暮らし

広島市の水道の原点は太田川にあり、その水は、江戸時代から、市民の暮らしを支えてきました。明治時代に入ると、水は、市民の暮らしを支えるだけでなく、産業の発展を支える重要な役割を果たすようになりました。そして、断水の歴史と向き合ってきました。

### 広島市水道の創設

1895年、全国で初めての近代水道が広島市に創設されました。これは、市民の暮らしを支えるだけでなく、産業の発展を支える重要な役割を果たすようになりました。そして、断水の歴史と向き合ってきました。

広報紙「みずたま」として掲載した「ひろしま水道物語」の概要版



九州支部

## 長崎市上下水道局

### 令和8年度日本水道協会全国会議の開催について



グラバー園



平和公園



稲佐山からの夜景

この度、令和8年度の日本水道協会全国会議を長崎市で開催することが決定いたしました。我が国の水道事業関係者が一堂に集まる最大規模の会議が、歴史と国際性に富んだ長崎の地で実現することになり、皆様のご来場をお待ち申し上げます。

全国会議のメイン会場となる出島メッセ長崎は、長崎駅に隣接しており、長崎空港発着のバスなどが運航しているバスターミナルからも近く、アクセスは非常に良好です。総会や研究発表会、水道展などを開催する会場が、ほぼ1つの建物に収まり、相互の会場の移動に係る負担が少ないです。

そこで、ご来場者の方々には、ぜひ長崎の街にも目を向けていただければと思います。世界遺産の構成資産の一つであるグラバー園や平和公園、長崎スタジアムシティ、稲佐山といった観光名所はすべて長崎駅から半径3キロメートル以内にあり、特に夜の各地のライトアップは、派手な明るさではなく、静謐で上質な空間を演出しております。魚介類などの長崎の幸を味わう道すがら、異国情緒あふれる長崎の街並みも楽しんでいただければ幸いです。



出島メッセ長崎

写真提供：(一社)長崎県観光連盟

## 私の好きな 時間

# 一步一步の先に広がる、 私だけの「幸せ時間」

奈良市公営企業管理者  
増田 聡



**私**の山登りへの入り口は、先輩や同僚たちとの「野歩き・街歩き」でした。元来、体を動かすことが好きで、野球やゴルフ、五十代からはソフトボールに没頭。誘われれば何にでも興味を持ち、のめり込む性分です。奈良の古道や史跡を巡るウォーキングも、最初はそんな軽い気持ちで参加しました。何より、ゴール地点での打ち上げと称し、仲間と酒肴を囲んで語らうひと時は、格別の楽しみでした。そんなある日、仲間から富士山に誘われたことが、私の人生を大きく変えることになりました。

**登**山初心者にとって、未知の世界は不安だけです。しかし、教わった通りに道具を一つずつ揃えていくと、心はまるで遠足前夜の子供のようにワクワク

と弾みました。2019年9月6日、快晴。富士宮五合目から踏み出した第一歩は、今も鮮明に覚えています。下から見上げる優美な姿とは裏腹に、延々と続く急坂やガレ場。その険しさに圧倒されながらも、七合目を越えた標高3,000メートル付近に到達すると、心地よい疲れが体を包みました。宿泊予定の九合目山小屋に予定より早く着いた勢いで、そのまま頂上へ。そこで目にした、駿河湾から伊豆半島までを見渡す絶景は、私の想像を遥かに超えるものでした。翌朝、雲海から昇る御来光に心を清められ、日本最高峰・剣ヶ峰(3,776メートル)に立った時の感動は、言葉では言い表せません。下山後の温泉と山登り談義に酔いしれながら、私はすっかり山の虜になっていました。



富士山登山道から見た駿河湾と伊豆半島



登山前の富士



富士最高峰剣ヶ峰山頂



北アルプスにて山頂を目指す



北アルプス西穂高岳山頂と雲海



北アルプス西穂高岳の幻想的光景

**憧**れの北アルプスへの挑戦は、翌年から始まりました。一年に二座を目標に、これまでに多くの名峰を歩んできました。北アルプスの魅力は、富士山とはまた違う、連峰の美しさと険しさにあります。尾根伝いに歩く縦走は、激しいアップダウンに苦しめられますが、時に「空中散歩」をしているかのような幻想的な感覚を味わえます。耳に届くのは風の音と、足元で砂利が鳴る音だけ。流れる時間は穏やかで、一步一步、ただ頂上を目指します。不意に雲海が晴れ、視界がパッと開ける瞬間の光景。色とりどりの高山植物やライチョウとの出会い。そん



登山道に咲く高山植物

な自然の営みに触れるたび、言いようのない感動が押し寄せます。もちろん、下山後の温泉と仲間との乾杯が、登山の魅力をさらに高めてくれるのは言うまでもありません。

**山**登りは、私の人生観をも変えてくれました。大自然の中に身を置く



北アルプス薬師岳の花畑

と、自分の無力さを痛感します。それと同時に、日常の些細な悩みに囚われることの無意味さを教えられました。登りも下りもありますが、一歩ずつ進んだ先には、必ず「感動」という希望が待っています。支えてくれる家族や仲間へ感謝し、私は今年もまた、覚悟を決めて山へと向かいたいと思います。



北アルプス尾根縦走



立山の風景



北アルプス針ノ木岳山頂

私の好きな  
時間

# 登山

大阪市水道局工務部  
元 庭窪浄水場長

土居 史和



甲斐駒ヶ岳

これと言って趣味というものがなかったのですが、ここ10年ほどは登山にはまっています。原点は、小学生の頃に、父に連れられて六甲山や金剛山など近場の山を歩いた経験にあります。ただ、その後しばらくは登山に行くことがなく、どちらかというとな不精な性分でした。

平成3年に大阪市水道局に入り、社会人としての生活が始まった当時、同僚に誘われたことをきっかけにカメラを趣味とするようになり、風景写真などを撮るため外に出かけるようになりました。雪景色の鞍馬山や桜の季節の吉野山を訪れたこともありますが、いずれも数回程度で、山に「登る」というよりも、写真を撮りに景色の良いところに行くというもので、山は眺める対象でした。

やがて、青春18きっぷの利用やインターネットによる宿泊予約が普及し、一人でも気軽に旅ができるようになったことが、私の行動を変えました。出不精であった私も一人旅を始め、列車で東北や九州まで足を延ばすようになり、旅先で風景や祭りなどの写真を撮ったり、現地の居酒屋に行ったりしていました。旅の計画から行動までを自分一人で決めることはワクワクするような体験でした。

また、職場の方に誘われて近場の六甲山や金剛山などに登ったり、旅行を兼ねて公共交通機関で山頂近くまで行ける乗鞍岳や谷川岳にも足を運んだり

しました。さらに、LCCを利用して、蔵王や阿蘇など比較的登りやすい山にも出かけるようになりましたが、登山はまだ旅の延長線上にありました。

大きな転機となったのは、平成26年、北部水道工事センターに在籍していた頃、職場の人に誘われて登った北アルプス・常念岳でした。経験者から初心者まで総勢7名での登山で、何度も休憩を重ねながら、ようやく山頂に到着しました。雲の切れ間から槍ヶ岳の鋭い山容が姿を現し、雷鳥にも出会えた時の感動は忘れられません。本格的な高山を自分の足で登りきる厳しさや、稜線から望む雄大な景色は、それまでの登山とは全く異なるものでした。この一度の登山をきっかけに、初めて自らの意思で山に向かうようになりました。

常念岳以降は、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを中心に山行を重ね、カメラを携えて稜線や山小屋、刻々と変わる山の表情を写真に収めながら登山を楽しんでいます。近場の山を除き、遠征する



常念小屋から望む槍ヶ岳



立山の稜線にたたずむ雷鳥



錦秋の長谷川ピーク



三俣山荘から望む夕映えの槍ヶ岳



白銀の赤岳と阿弥陀岳



柵池高原での満天の星空

場合は、山小屋に泊まる山行が中心であり、やがて一泊二日だけでなく、山小屋に二泊、三泊しながら複数の山をつないで歩く縦走にも挑戦しました。縦走では、体力の配分や行動時間の管理、天候の変化を見据えた判断が常に求められ、北アルプスの表銀座や裏銀座など、自分の判断と体力で長い行程を歩ききった時の充実感は大きいものでした。

また、山小屋で出会った登山者から「雪山は夏山とはまったく違う美しさがある」と聞き、その言葉が強く心に残り、冬の山にも挑戦してみたいと思うようになりました。12本爪アイゼンやピッケルなどの雪山装備を揃え、平成30年から本格的な雪山に挑戦しました。最初は不安もありましたが、冬の伊吹山や大山で雪山歩行の基礎を学び、唐松岳、赤岳、甲斐駒ヶ岳などにも足を運びました。白銀に覆われた稜線、凍てついた空気の中で見る朝焼けや夕焼けは、夏山と全く異なる表情を見せてくれました。雪山では、ほんの小さな判断ミスが大きなりスクに

つながります。そのため、天候や雪の状態を慎重に見極め、無理をしない判断を重ねてきました。

かつては日本百名山の踏破を一つの目標として山登りをして、現在までに70数座に登ってきましたが、年齢や体力、山に向き合う時間の変化もあり、すべてを達成することは容易ではないと感じるようになりました。

それでも1年を通じて登山を楽しむことは変わっておりません。冬から春にかけては八ヶ岳や北アルプスなどの山へ、ゴールデンウィークには上高地から沼沢方面に足を運び、5月下旬には残雪期の立山を訪れ、夏には再び本格的な夏山シーズンを迎えるという、季節ごとの山の表情を味わう登山が定着しています。

振り返ってみると、カメラを始めたきっかけも、登山や雪山に挑戦するようになったきっかけも、いずれも人との出会いによるものでした。同僚や山で出会った登山者との何気ない会話や助言が、新しい一歩を踏み出す後押しとなり、自分の世界を大きく広げてくれたのだと思います。

かつては登頂の達成感を求めて山に向かっていましたが、近年は、自然の中をゆっくり歩く時間そのものを楽しむ登山に心境が変わってきました。これからも無理をせず、安全を第一に、一步一步を大切にしながら、山と向き合っていきたいと思っています。



槍ヶ岳

## 2025年度ダクタイトイル鉄管協会セミナーを開催しました

水道事業に関する最新の情報や先進事業者の事例を紹介するセミナーを毎年開催しており、今年度も下記日程・内容にて全国16会場で開催し、会場で1,191名、オンライン配信においても266団体にご参加いただきました。講演頂いた講師の方々にお礼申し上げます。

### 2025年度ダクタイトイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》（一部 web 配信）

支部	開催日・開催場所	講師	テーマ
北海道	10月22日(水) 札幌市	八戸圏域水道企業団 工務課 課長 大嶋 武仁 氏	ICT技術を活用した耐震管の品質管理
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏	能登半島地震におけるライフライン被害・ 復旧の教訓と課題
東北	10月22日(水) 仙台市	新潟市水道局 技術部長 川瀬 悦郎 氏	新潟市における令和6年能登地震対応 ～ソフトとハードの強靱化～
		金沢大学 名誉教授 宮島 昌克 氏	2024年能登半島地震から学ぶ 水道耐震化の課題
	11月11日(火) 盛岡市	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤 智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組みについて
		名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 平山 修久 氏	過去を学び、これからの危機を乗り越える
関東	8月26日(火) 新潟市	横浜市水道局 担当理事 江夏 輝行 氏	横浜市水道局の取り組み ～料金改定と施設の更新・耐震化～
		筑波大学 情報システム系 教授 庄司 学 氏	巨大地震災害における水道施設の 被害の特徴と今後の施策について ～2024年能登半島地震被害から学ぶべきこと～
	9月4日(木) 水戸市 (web 併用)	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤 智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組みについて
		金沢大学 名誉教授 宮島 昌克 氏	2024年能登半島地震から学ぶ 水道耐震化の課題
	10月24日(金) さいたま市	公益財団法人水道技術研究センター 調査事業部 主任研究員 小寺 翼 氏	スマート水道メーターの効果と課題 － New-Smart プロジェクトの取組－
		福山市立大学 都市経営学部 准教授 清水 聡行 氏	水道事業の持続性を確保するために

**札幌会場**（10月22日開催）会場60名が参加



八戸圏域水道企業団 工務課課長  
大嶋 武仁氏



岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授  
能島 暢呂氏



会場風景

**仙台会場**（10月22日開催）会場45名が参加



新潟市水道局 技術部長  
川瀬 悦郎氏



金沢大学 名誉教授  
宮島 昌克氏



会場風景

**盛岡会場**（11月11日開催）会場55名が参加



香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐  
遠藤 智義氏



名古屋大学 減災連携研究センター 准教授  
平山 修久氏



会場風景

**新潟会場**（8月26日開催）会場67名が参加



横浜市水道局 担当理事  
江夏 輝行氏



筑波大学 情報システム系 教授  
庄司 学氏



会場風景

**茨城会場**（9月4日開催）会場36名、オンライン配信で36団体が参加



香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐  
遠藤 智義氏



金沢大学 名誉教授  
宮島 昌克氏



会場風景

**さいたま会場**（10月24日開催）会場96名が参加



公益財団法人水道技術研究センター 調査事業部 主任研究員  
小寺 翼氏



福山市立大学 都市経営学部 准教授  
清水 聡行氏



会場風景

## 2025年度ダクタイトイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》(一部 web 配信)

支部	開催日・開催場所	講師	テーマ
関東	12月12日(金) 横浜市	新潟市水道局 技術部長 川瀬 悦郎 氏	施設整備とアセットマネジメント ～アセットの目的と活用～
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏	能登半島地震におけるライフライン被害・ 復旧の教訓と課題
	1月20日(火) 千葉市	神戸市水道局 副局長 坂田 昭典 氏	施設の更新・耐震化に向けた 神戸市水道局の取組み ～阪神・淡路大震災からの30年間と今後の展開～
		公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長 二宗 史憲 氏	水道における災害対応 ～「地震等緊急時対応の手引き」R7.3改訂を踏まえて～
	2月4日(水) 東京都 (web 開催)	公益財団法人 日本下水道新技術機構 参与 (前 国交省上下水道審議官) 松原 誠 氏	水道事業のこれから ～水道行政移管の振り返りと今後の展望～
		東京都立大学 特任教授 滝沢 智 氏	少子高齢化社会における 水道事業経営のあり方について
中部	11月20日(木) 名古屋市	珠洲市役所 環境建設課 課長 大宮 準司 氏	“令和6年能登半島地震” 発生直後からの振り返り
		近畿大学 経営学部 教授 浦上 拓也 氏	持続可能な水道事業経営について
関西	12月9日(火) 大阪市	京都大学 大学院地球環境学堂 地球益学廊水環境保全論分野 教授 藤原 拓 氏	持続可能な上下水道実現に向けた 産官学共創の意義
		国土技術政策総合研究所 上下水道研究部 水道研究室長 田嶋 淳 氏	国土技術政策総合研究所上下水道研究部の 取り組み
	1月29日(木) 大津市	京都大学 大学院地球環境学堂 環境調和型産業論分野 教授 越後 信哉 氏	社会や環境の変化と水質管理
		徳島市上下水道局 理事 辻 裕之 氏	とくしま水道の持続
関西・ 中国四国 共催	8月28日(木) 徳島市	京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻 教授 伊藤 禎彦 氏	料金値上げを円滑に進めることを目的とした 市民とのコミュニケーション技術
		明石市上下水道局 水道室長 辻 和也 氏	管路更新効率化の取り組み

### 横浜会場 (12月12日開催) 会場95名が参加



新潟市水道局 技術部長  
川瀬 悦郎 氏



岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授  
能島 暢呂 氏



会場風景

**千葉会場**（1月20日開催）会場 135名が参加



神戸市水道局 副局長  
坂田 昭典氏



公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長  
二宗 史憲氏



会場風景

**東京会場**（2月4日開催）オンライン配信で230団体が参加



公益財団法人 日本下水道新技術機構 参与(前 国交省上下水道審議官)  
松原 誠氏



東京都立大学 特任教授  
滝沢 智氏



会場風景

**名古屋会場**（11月20日開催）会場 104名が参加



名古屋市役所 環境建設課 課長  
大宮 準司氏



近畿大学 経営学部 教授  
浦上 拓也氏



会場風景

**大阪会場**（12月9日開催）会場 78名が参加



京都大学 大学院地球環境学堂 地球益学館水環境保全論分野 教授  
藤原 拓氏



国土技術政策総合研究所 上下水道研究部 水道研究室長  
田嶋 淳氏



会場風景

**大津会場**（1月29日開催）会場 80名が参加



京都大学 大学院地球環境学堂 環境調和型産業論分野 教授  
越後 信哉氏



徳島市上下水道局 理事  
辻 裕之氏



会場風景

**徳島会場**（8月28日開催）会場 64名が参加



京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻 教授  
伊藤 禎彦氏



明石市上下水道局 水道室長  
辻 和也氏



会場風景

# 協会ニュース

## 2025年度ダクタイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》（一部 web 配信）

支部	開催日・開催場所	講師	テーマ
中国 四国	11月21日(金) 広島市	中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏	PFAS規制の展望と除去・分解技術の現在
		横浜市水道局 施設部長 小西 孝之 氏	水道料金改定と管路更新
九州	10月9日(木) 福岡市	中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏	GXとDXで創る健全な水循環による 水道の基盤強化
		公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長 二宗 史憲 氏	水道における災害対応 ～「地震等緊急時対応の手引き」R7.3改訂を踏まえて～
	11月17日(月) 鹿児島市	千葉大学大学院 工学研究院 融合理工学部 都市環境システムコース 教授 丸山 喜久 氏	近年の自然災害時における ライフライン施設の機能支障
		横浜市水道局 施設部長 小西 孝之 氏	水道料金改定と管路更新

### 広島会場（11月21日開催）会場 110名が参加



中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授  
山村 寛 氏



横浜市水道局 施設部長  
小西 孝之 氏



会場風景

### 福岡会場（10月9日開催）会場 101名が参加



中央大学 工学部 人間総合理工学科 教授  
山村 寛 氏



公益社団法人 日本水道協会 総務部総務課 担当課長  
二宗 史憲 氏



会場風景

### 鹿児島会場（11月17日開催）会場 65名が参加



千葉大学大学院 工学研究院 融合理工学部 都市環境システムコース 教授  
丸山 喜久 氏



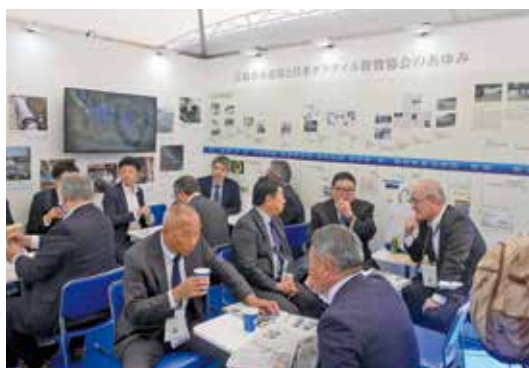
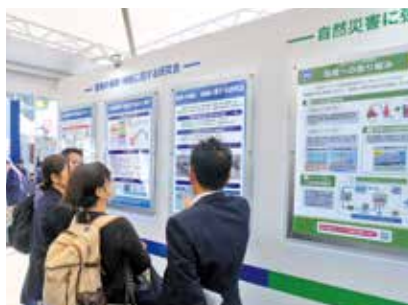
横浜市水道局 施設部長  
小西 孝之 氏



会場風景

## 広島水道展に出展しました。

日本ダクタイル鉄管協会は、2025年10月29日～31日まで開催された「2025広島水道展」に出展いたしました。今回の水道展は、来場者数が13,272名にのぼり、屋外会場ならではの開放感あふれる展示会となりました。ブースコンセプトに『「普段の水」を「不断の水」に』を掲げ、開催地である広島にちなんだイラスト、広島市水道局と当協会のおゆみを紹介するグラフィックなどをあしらい、パネル展示や大型モニターによる動画放映を通じて当協会の取り組みを多角的に紹介しました。また、今回は日本ダクタイル異形管工業会との共同出展ということもあり、実物の直管・異形管を使用し、管路が土中に埋設されている様子を再現する展示を行いました。これらの展示を通じて、水道管路全体に貢献する当協会の姿勢を多くの来場者に広くPRすることができたと考えております。



### 便覧

資料名	型番	更新月
便覧	第15版	2026年3月



▲  
データは  
こちら

### 技術資料 総合編

資料名	型番	更新月
铸铁管類規格の変遷	T50	2025年9月
配水管路における残留塩素濃度確保のための効率的排水システム	T101	2026年3月



▲  
データは  
こちら

### 技術資料 特殊工法編

資料名	型番	更新月
ダクタイトイル鉄管によるPIP工法 設計と施工	T36	2026年2月



▲  
データは  
こちら

### 技術資料 農業用水編・下水道編

資料名	型番	更新月
下水道用 ダクタイトイル鉄管管路 設計と施工	T30	2025年11月
下水道圧送管路における硫酸腐食箇所の効率的な調査技術	T102	2026年3月



▲  
データは  
こちら

### 技術資料 継手性能試験編

資料名	型番	更新月
GX形ダクタイトイル鉄管 呼び径500～1000	T65	2025年11月



▲  
データは  
こちら

### 施工要領 耐震継手

資料名	型番	更新月
NS形ダクタイトイル鉄管 接合要領書 呼び径75～450	W12	2025年6月
GX形ダクタイトイル鉄管 呼び径75～450	W16	2025年10月



▲  
データは  
こちら

### 施工要領 非開削工法用耐震継手

資料名	型番	更新月
PN形ダクタイトイル鉄管	W15	2026年2月



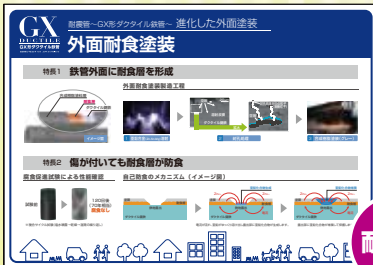
▲  
データは  
こちら

# 水道事業インフラに求められる耐震性・耐久性に貢献するダクタイト鉄管

日本ダクタイト鉄管協会では、市民のみならずみなさまにダクタイト鉄管への理解をより深めていただける内容の展示物・パネルをご用意しております。水道週間や各種イベント等にぜひご活用ください。無償でお貸し出ししておりますので、各本支部までお気軽にお問い合わせ下さい。



失ってからよくわかる...  
水のあるくらしのありがたさ



外面耐食塗装  
(GX形)

長期耐久性



## GX形510 ミニチュア (卓上タイプ)

サイズ(梱包時)  
W220\*H120\*D80  
約1キロ



新規格

※パネルは全て A1 サイズになります。



耐震継手ダクタイト鉄管の  
特性と地震時の挙動

震度7 津波・台風・  
豪雨にも耐えた  
ダクタイト鉄管

耐震性



下水道



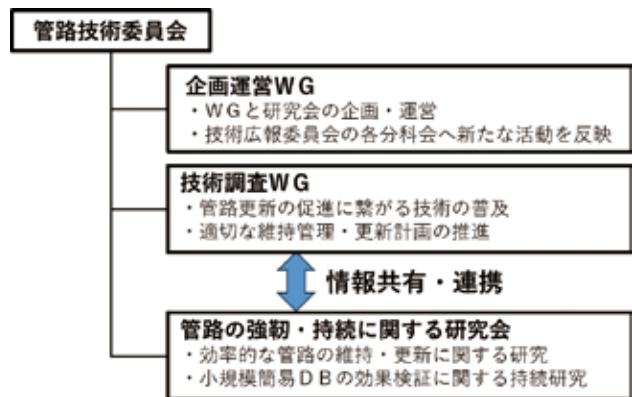
下水道で活躍するダクタイト鉄管

## 「管路技術委員会」～管路の幅広い課題に対応～

水道事業は技術者不足、財政逼迫等により管路更新が思うように進まず、結果として管路の老朽化が進み、現状の延長で推移すれば、老朽化した管路の延長がさらに増加していくことが見込まれます。これまで、日本ダクタイル鉄管協会では、ダクタイル鉄管の継手や工法の開発、規格や技術資料の整備、技術説明会の開催等、ダクタイル鉄管の普及を主軸に活動してきました。しかし、水道事業における課題は多岐にわたり、特にわれわれが長年携わってきた水道管路が抱える課題は、水道事業者が抱える課題の大きなウエイトを占めています。その課題を解決していくためには、単にダクタイル鉄管を使っていたりするための活動だけでは不十分です。そこで管路技術委員会を発足し、水道管路そのものを今後どのように維持管理し、適切に更新・耐震化していただくか、管路全体の技術にも対象を広げ、活動しています。

### ■ 管路技術委員会の構成

委員会は、二つのワーキンググループ(企画運営、技術調査)によって運営しています。加えて、「管路更新を促進する工事イノベーション研究会」から名称変更した「管路の強靱・持続に関する研究会」も委員会の組織下とし、ワーキンググループと情報共有・連携しながら活動を進めています。



### ■ 活動内容

#### ① 水道管路工事の施工管理のDXを支援する取り組み

水道工事業業者においても、高齢化が進み、若手の方の参入減少等により工事の担い手不足が加速しています。また、工事品質を確保するために膨大な工事管理書類が必要となります。これらの課題を解決するために、「施工管理システム」の導入を推奨しています。

携帯端末への施工情報の入力、当協会発行の接合要領書に定められた手順に従って行うため、正しい施工手順で作業を行うことが可能であり、施工品質の確保が期待できます。

入力した施工情報を基に、当協会発行の継手チェックシート、工事日報、実績管割図等の施工管理書類が自動的に作成可能です。そのため、工事業業者による書類作成業務の効率化につながるだけでなく、工事現場で管理数値をメモ書きしてPC上で清書する場合の転記ミス等の不具合防止も図られ、施工管理書類の信頼性向上が期待できます。



## ②小規模簡易DBの効果検証

日本ダクタイトイル鉄管協会では、水道事業体の技術職員不足が顕在化する中、管路更新の促進を少しでも支援できるような工事の仕組みとして、概算数量により発注し、工事終了後、精算するという事業体の手間を減らした発注方式「小規模簡易DB」を提案し、試行を含め50以上の事業体で実施されています。ヒアリングの結果、下記のような導入効果が得られたとの回答がありました。今後も課題の検証、概算数量等の資料のブラッシュアップ等を行い、管路更新の一助となるよう進めていきます。

事業運営面	<ul style="list-style-type: none"><li>設計積算業務の負担軽減や期間短縮により、工事の早期発注や発注の平準化が図れる</li><li>限られた技術職員での管路更新の執行の一助となる</li></ul>
地元工事業者の確保	<ul style="list-style-type: none"><li>現行の入札方式で資格要件を変えずに発注することで、地元工事業者の受注機会を維持できる</li><li>地元工事業者の受注機会の維持により、配管工事や災害対応を含む維持管理業務の担い手を確保できる</li></ul>
配管工事の品質確保	<ul style="list-style-type: none"><li>詳細設計の実施を通じて工事業者の配管技術が向上</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>設計積算が短期間で出来るため緊急工事にも利用できる</li><li>現場条件に合った管割図での材料手配で材料の過不足の軽減</li><li>既設管の情報が不足する場合でも少ない手間で発注可能</li></ul>

## ③効率的な管路の維持・更新に関する研究

管路の維持管理から更新計画の策定、更新工事に至る一連の業務の課題について、研究会参加の委員事業体等からの情報や、先進事業体での成功事例や最新技術の取組み事例などを調査発掘し、より効率的な管路の維持・更新について研究しています。

### 効率的な管路の維持・更新に関する研究 研究テーマ

- 1 有収率の維持向上**（効果の高い漏水調査方法、新たな方法の実績、更新計画への展開方法等）
  - 2 緊急修繕**（体制整備・受付連絡・夜間休日待機・修繕業者確保・契約・工事精算、大規模災害等）
  - 3 管路更新**（更新計画の策定、担い手の確保、不調対策、更新促進の取組み等）
  - 4 人口減少・過疎化**（管路更新や今後の給水区域についての考え方、残塩確保のための捨水削減等）
- その他：国の新しい施策や日本水道協会の指針等の改定など、必要に応じて随時テーマ選定

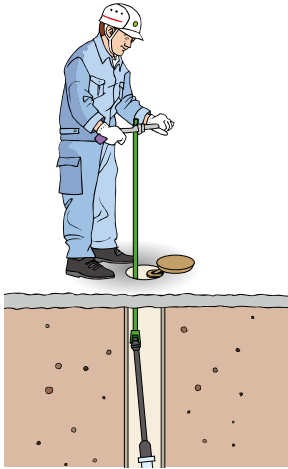
さらに、事業環境に応じた管路の維持管理及び管路更新に向けて、研究会活動の情報発信を行うとともに、研究会を通じた「事業体間の交流促進」として、実務担当レベルでの連携や取組み事例の情報交換の機会作りのサポートにも取り組んでまいります。

日本ダクタイトイル鉄管協会は、管路技術委員会の活動を通して、水道管路の課題を解決し、安全で強靱な管路の持続に貢献します。

<https://www.jdpa.gr.jp/challenge/>



# HINODE



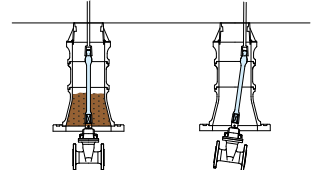
## バルブ操作をより確実にする 傾斜対応継ぎ足し棒 BPR

BPR（ボールポイントロッド）は先端にボールポイント構造を採用。バルブが埋没している場合や傾いている場合でも、緊急時や維持管理の場面において、バルブ操作を確実に且つ容易に行うことができます。



ボールポイント構造

バルブが埋まっても斜めでも、バルブ操作が可能に。



バルブが埋没

バルブが傾斜

### 日之出水道機器株式会社

本社 福岡市博多区堅粕5丁目8番18号(ヒノデビルディング)

BPRの詳しい  
情報はこちら



# つながるダクタイル

社会をつなぐ。水道をつなぐ。未来へつなぐ。

## TOHYAMA TIFアダプター

水圧による離脱なし！ 曲げも伸縮も自在！

高水圧に耐える止水性能 | ±20~40mmの伸縮性能 | 容易な施工時の取り付け

ダクタイル鑄鉄製高性能フランジアダプター 口径75~2600mm WEBカタログ



遠山鉄工所代表社員  
てつお君

株式会社 遠山鉄工所 水と鉄とこれからも  
<https://www.kk-tohyama.co.jp>

# 浄水場・配水池・水処理センターの建設、更新に 丸マークのフランジ形異形管



豊富な管種、安定した品質、確実な納期で九州鑄鉄管の製品は日本全国で活躍しています。

**丸**九州鑄鉄管株式会社

<http://www.kyuchu.co.jp>

本 社：福岡県直方市大字上新入1660-9

TEL 0949-24-1313

東京支店：東京都千代田区内神田2-7-12 第一電建ビル401号

TEL 03-3525-4551

## ホームページで便覧がダウンロード できるようになりました。



そのほか、各種技術資料もダウンロードできます。

(一社) 日本ダクタイル鉄管協会

## 編集後記

- 巻頭言は、国土交通省上下水道審議官の石井宏幸氏に「思い出の山行」と題してご執筆いただきました。目標への執念と、自然の厳しさを前に下す冷静な判断力は、公共インフラを担う我々の業務姿勢にも通ずるものを感じました。
- 座談会では「広報PRを考える」をテーマに、千葉大学の丸山教授、仙台市水道局、盛岡市上下水道局の皆様にご語り合ってくださいました。仙台市の現場見学会による事業の「可視化」や、盛岡市の「ヒト」にスポットを当てた広報誌の特集など、支える人々の魅力を伝えることで住民とのリスクコミュニケーションを図ろうとする、各事業体の先進的な取り組みが紹介されています。
- 「この人に聞く」では、西宮市の青山弘上下水道事業管理者にインタビューしました。阪神・淡路大震災での復旧体験、そして「受け皿」である下水道が直らなければ水は流せないという「上下水道一体」の視点の重要性は、震災を知らない世代にとっても学ぶべき点が多いものです。また、過酷な漏水事故

現場で見せた、職員が連携して難局を乗り切る「現場力」こそ、AIでは代替できない財産であるというお言葉が、深く胸に響きました。

- 技術レポートは、DXや新技術を活用した効率化に資する6事例を掲載しました。半導体工場建設に伴い管路DB方式で工期短縮を実現した千歳市、施工管理システム導入で品質均一化を図る芳賀中部、呼び径500GX形の高い施工性を実証した富士市、概算数量発注方式により設計積算を省力化した長野市、狭隘なさや管内配管を特殊治具で完遂した京都府、小規模簡易DBを本格運用し発注件数の5割に拡大させた鹿児島市。各地の創意工夫は実務において非常に示唆に富むものです。
- 今号を通じて、老朽化や人材不足に対し、強い使命感を持った「人」が技術と知恵を絞り、持続可能な水道の未来を切り拓こうとする姿が浮き彫りとなりました。本誌が、皆様の日常業務や将来の事業運営の一助となれば幸いです。

## ダクタイトイル鉄管第118号〈非売品〉

2026年4月13日発行

編集兼発行人 田 村 聡 志

発行所 一般社団法人  
日本ダクタイトイル鉄管協会  
(<https://www.jdpa.gr.jp>)

本部・関東支部	〒102-0074	東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館)
		電話03(3264)6655(代) FAX03(3264)5075
関西支部	〒542-0081	大阪市中央区南船場4丁目12番12号(ニッセイ心斎橋ウエスト)
		電話06(6245)0401 FAX06(6245)0300
北海道支部	〒060-0002	札幌市中央区北2条西2丁目41番地(札幌2・2ビル)
		電話011(251)8710 FAX011(522)5310
東北支部	〒980-0014	仙台市青葉区本町2丁目5番1号(NL仙台広瀬通ビル)
		電話022(261)0462 FAX022(399)6590
中部支部	〒450-0002	名古屋市市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)
		電話052(561)3075 FAX052(433)8338
中国四国支部	〒730-0032	広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル8階)
		電話082(545)3596 FAX082(545)3586
九州支部	〒810-0001	福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル)
		電話092(771)8928 FAX092(406)2256

# 水をつなぐ、 しあわせをつむぐ

安心できる水と暮らしている人のために、  
その水をつなぐために努力する全ての人と共に、  
日本鑄鉄管は、技術と知識で  
安心できる暮らしと構造を実装します。



## 日本鑄鉄管株式会社

本 社 | 〒104-0045 東京都中央区築地1-12-22 コンワビル ☎ 03-3546-7675  
久喜工場 | 〒346-0193 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼一番地 ☎ 0480-85-1101  
支 社 | 北海道支社、東北支社、中部支社、九州支社



[www.nichu.co.jp](http://www.nichu.co.jp)

For Earth, For Life  
Kubota

# ON YOUR SIDE

1890年の創業から「食料・水・環境」の課題解決に向けて歩んできたクボタ。  
これからも一步一步、すべての人と心をひとつに、明日へと進み続けます。

株式会社クボタ